

入国

配属



はな語学院便り

拝啓 春分の候、貴社におかれましてはこのコロナ禍にあっても力強く、更に社業に邁進されておられることと存じます。
はな語学院はこの苦境を通して大きな変化を強いられましたが、皆様の御力添えにより講習を再開することができました。いくら感謝しても感謝しきれません。この度ははな語学院のスタートのご報告をさせていただければと思い、はな語学院便りをお届けさせて頂きました。お読みいただくと幸いです。

敬具
学院長 石田 展久

修了式

学院での様子



実習生からメッセージ



はな語学院



(オンライン授業で)一番難しかったのは、声がよく聞こえなかったのが、コミュニケーションを取ることが大変でした。学校で、新しい友達や先生に会えてうれしかったです。
ベトナム ダットさん



仕事するとき日本語を使います。学校で勉強した日本語は、今役に立っています。
ベトナム マイさん



社長と話するとき日本語で話しています。先生が教えてくれた文法は仕事でとても役に立っています。学校で会話を練習しました。会話のとき、新しい言葉も習いました。私の学校の生活はとても楽しかったです。ですから、私は今でも学校のことを忘れません。
フィリピン エラさん



学校はとてものしかったです。学校で先生とみなさんはとても時間を守りますから、仕事で役立っています。先輩たちはとても優しいですから、仕事は楽しいです。
ミャンマー ウインさん



はじめて日本に来た時、わからないことがたくさんあって心配でしたが、学校で先生に日本語と日本の事を教えていただきました。学校で、家族のような友達ができました。友達は外国人ですから、いつも日本語で話し、会話練習になりました。仕事の時、日本語はいつも使っています。学校で勉強した日本語は仕事でとても役に立ちました。皆さん、仕事はいくら大変でも、一生懸命頑張ってくださいね！
インドネシア アグネスさん

Facebook ホームページ



お知らせ

学院の様子や修了式をFacebookで公開中！
ホームページも随時更新中です。
是非ご覧ください。

最後までお読み頂き、ありがとうございました。貴社の益々の発展をお祈り申し上げます。

インタビュー



学院長
石田展久

講師
古橋美樹子

インタビューは古橋美樹子。秋田県出身。中学教師を15年経験し、その後育児に専念。仕事復帰で就職活動中に、はな語学院と出会い、今年1月より勤務。

今回は入国再開した時のことについて弊学院の石田との会話の記録です。

古橋：9月23日に入国再開後初めての実習生が入国してきたんですね。どう感じましたか？

石田：すごくほっとしたのを憶えています。

古橋：ほっとしたんですか？

石田：コロナ禍で平時とは違いますから、対面するまで無事会えるか心配していました。なので、うれしかったですし、とても安心したんです。

古橋：はな語学院は以前と変わったんですよ。

石田：まず大きな変化と言えば山武市蓮沼に引っ越したことです。

古橋：静かでとても良いところですね。勉強に集中できそうです。

石田：誘惑も少ないですから、一生懸命勉強できる環境だと思います。その他、変わったことというと、入国後約2週間の待機期間です。

古橋：2週間の待機期間は実習生にとって大変だと思います。基本的には部屋から出ることはできませんし、友達とも会えませんから。

石田：そうですね。とても大変だと思います。新しい国に来ての戸惑いがある上に、頼る相手はスマホを通して会話する先生です。私もその点不憫に感じましたが、思った以上に皆たくましいですよ。

古橋：「2週間大変でしたか？」と聞くと、「さびしいですが、今は仕方ないです。大丈夫です！」と力強く答えてくれたのが印象的でした。それを聞いて益々応援したいと思いました。

石田：そうなんです。ですから、待機期間明けに友達に会うと、とても生き生きとしています。

古橋：ずっとモニター越しの会話でしたが、この子はこんなに明るい子だったのかと、ギャップを感じることもありました。

石田：そういう元気な姿や勉強している姿を見ると、自分も頑張らないとなと思います。もちろん指導すべきこともたくさんありますから、私たちの役割に真摯に取り組んでいきましょう。

インタビュー後記

はな語学院はコロナ禍を通して大きな転機を迎えましたが、愛ある厳しい指導を通して自立した精神を育てること。それは変わらないことを知りました。実習生が成長する姿を見るのが楽しみです。